

# 原種農場の役割

## 原種農場の業務内容

稲・麦・大豆には、県が栽培をすすめている奨励品種があります。その種子は、原原種ほ **原種ほ** 採種ほ の順で生産が行われ、農家に配られます。

原種農場では、**原種の部分を担当**し、主な業務内容は次の通りです。

原種の生産・貯蔵・供給

原種の生産 貯蔵に関する試験研究

採種ほに対する技術的支援

## 原種生産の内容と意義

水稻は、年間4～6品種 計12,000～15,000kgを生産し、貯蔵原種と合わせて12～15品種 計12,000～13,000kgを採種ほに供給します。

麦は、年間4,000～5,000kgを生産し、4,000～5,000kgを採種ほに供給します。

大豆は、年間400kgを生産し、400～500kgを採種ほに供給します。

**原種は、県農業の根幹をなしています。**

作物	原種ほ		採種ほ		一般栽培（農家）	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
水稻	385a	13,400kg	340ha	1,417,800kg	40,800ha	207,700t
麦	200a	4,800kg	70ha	173,800kg	2,000ha	4,700t
大豆	40a	400kg	5ha	9,300kg	2,300ha	3,000t

注) 平成17年産の数値 1ha = 100a、1t = 1,000kg

**優良種子の生産 供給を通じ、作物の安定生産と品質向上に役立ちます。**



種子審査

原種や種子に問題がないか、生育中の株や生産物を審査します。



異型除去

品種の特性をそなえていない株を見つけたら、取り除きます。



大豆の発芽試験

かびや腐敗が出にくく、発芽が安定する条件を研究しています。